

赤井川村地域公共交通活性化協議会が『令和5年度地域公共交通優良団体大臣表彰』を受賞！！

この度、地域公共交通の確保・維持の積極的な取組が認められ、北海道運輸局管内の赤井川村地域公共交通活性化協議会が国土交通省「地域公共交通優良団体大臣表彰」を受賞することとなりました。

この取組は、村唯一のバス路線の存廃協議の申し入れを契機に、村役場が中心となり、リゾート会社の従業員送迎バスといった村内の輸送資源をフル活用し、地域の多様な意見を取り入れ、自らがデザインした持続可能な公共交通「むらバス」を運行するなど、地域公共交通の確保・維持に取り組んだことが評価されたものです。

【表彰式】

1 日 時：令和5年12月13日（水）14：00～

2 式 場：国土交通省 10階「共用大会議室」

東京都千代田区霞が関2-1-3

3 受賞団体：5団体（添付資料参照）

当日は、大石和朗赤井川村地域公共交通活性化協議会会長（赤井川村副村長）が出席予定です。

功績概要等は、添付資料をご覧ください。



乗車種別	赤井川村⇨余市町	赤井川村⇨余市町	赤井川村⇨余市町
乗車料	(1人)	(1人)	(1人)
現金でお支払いの場合	一般	高校生以下	
赤井川村⇨余市町	300円	200円	
赤井川村内の移動	100円	100円	
余市町内の移動	200円	200円	
定期券	赤井川村⇨余市町	赤井川村⇨余市町	赤井川村⇨余市町
乗車料	1ヶ月	1ヶ月	1ヶ月
	4,400円	4,400円	4,400円
学生定期券は赤井川村と余市町間の定期券のみの販売です	1ヶ月	6,600円	4,400円
	19,800円	13,200円	26,400円

▲むらバス

▲輸送実績（廃止前の路線バスとの比較）

▲リーフレット

《地域公共交通優良団体大臣表彰》

地域公共交通に関する取組が他地域の模範となるような顕著な功績がある団体を表彰することで、優良事例の情報提供等を図ることを目的に、平成21年から実施しています。

（過去の表彰実績） https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000042.html

【問い合わせ先】北海道運輸局交通政策部交通企画課 平澤・佐藤 電話：011-290-2721（直通）



令和5年地域公共交通優良団体大臣表彰受賞者名簿

令和5年12月13日

国土交通省

ふりがな 受賞者名	功績概要	現住所
あかいがむらちいきこうきょうこうつうかつせいかけきょうぎかい 赤井川村地域公共交通活性化協議会	村役場が中心となり、リゾート会社の従業員送迎バスといった村内の輸送資源をフル活用し、地域の多様な意見を取り入れ、自らがデザインした持続可能な公共交通「むらバス」を運行するなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	北海道余市郡赤井川村字赤井川74-2
とくていひえいりかつどうほうじんみんまとみなとまちづくりねっとわーく 特定非営利活動法人みんなと湊まちづくりネットワーク ふくしまけんあいづわかまつし 福島県会津若松市	市と住民主体のNPOが連携し、利用目的に応じたバス路線の再編や地域の合意による目標設定を行うなど、地域内交通を地域住民が主体的かつ持続的に運営する仕組みを構築・運用するなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	福島県会津若松市湊町大字共和字西田面272 福島県会津若松市東栄町3-46
ぐんまけんまえはしし 群馬県前橋市	様々な関係者と連携を図り市内バス事業者六社をとりまとめ共同経営計画の策定へ導き、重複路線の運行を効率化したこと、MaaSの運用においてマイナンバーカードとの認証・連携などのデジタル化を推進し、利用者の増加に積極的に取り組んだ	群馬県前橋市大手町2-12-1
かかみがはらしちいきこうきょうこうつうかいぎ 各務原市地域公共交通会議	地域住民・交通事業者・行政の連携により公共交通網を再構築し、とりわけ「ふれあいバス」の再編、「チョイソコかかみがはら」の導入及び複数のタクシー事業者による輪番制の運行など利便性・持続可能性を向上させる地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	岐阜県各務原市那加桜町1-69
ながさきこうきょうこうつうかつせいかけきょうぎかい 長崎市公共交通活性化協議会	バス事業者と市が連携し、競合路線での運行事業者の一本化、等間隔運行の実施及び幹線と地域路線のハブ&スポーク化を含む路線再編施策を展開することで利便性の維持、運行の効率化及びバス事業者の収支改善を実現するなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	長崎県長崎市魚の町4-1

赤井川村地域公共交通活性化協議会（北海道 赤井川村）



村唯一のバス路線の存廃協議を契機に、村役場が中心となり、タクシー会社、スクールバス、リゾート会社の従業員送迎バスといった**村内の輸送資源をフル活用し、地域自らがデザインした持続可能な公共交通「むらバス」を運行**するなど、地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ。

（取組の概要）

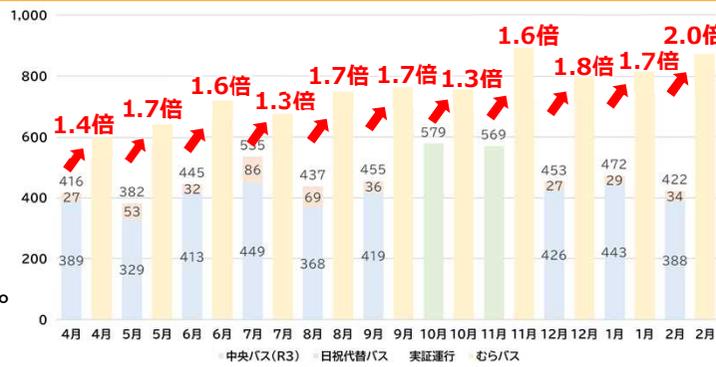
1. 多様な主体の実質的参画

（1）村の公共交通の「ありたい姿」を地域自らがデザイン

- **村役場の交通担当者が自ら「持続可能な公共交通」というミッションを掲げ、教育部門、福祉部門と連携**するとともに、**高校生の保護者や民間のスキーリゾート会社も巻き込んで**地域公共交通活性化協議会を立ち上げ、地域公共交通計画を策定。
- 外部有識者を招き、**シンポジウムやワークショップを開催し、村民の意識醸成につなげ、公共交通を議論。**

（2）「共創」による村内の輸送資源の総動員

- 令和2年の改正地域公共交通活性化・再生法で「輸送資源の総動員」という考え方を知り、民間のバス会社・タクシー会社に公共交通を委ねてきた発想を転換。**従業員送迎バスを有する村内の民間スキーリゾート会社に協力要請**を行い、村営の自家用有償運送を開始。**村と、運行委託をする地元タクシー会社、車両と運転手の提供を受けるスキーリゾート会社とで、協力体制に関する覚書を締結。**

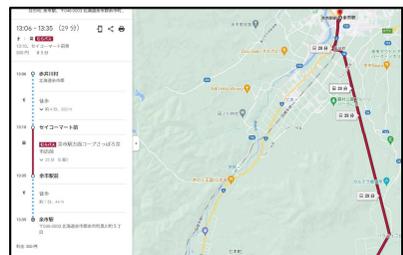


▲路線バス（廃止前）と「むらバス」の輸送人員の比較

2. 創意工夫

（1）利用者目線のダイヤ設定により、通えなかった高校に通えるように！

- 村民から具体的なニーズを聞くため、各町内会だけでなく、**最も利用するであろう高校生とも意見交換会を重ね、実証運行を実施。**利用者の声を丁寧に聞いてダイヤ設定などを行ったことで、村内には高校がなく、従来は**保護者の送迎無しでは通えなかった小樽市の高校への通学が可能に。**また、地域おこし協力隊OGが「むらバス」に愛着を感じてもらえるようにと、**地元中学校とのコラボTシャツも作成。**



▲Googleマップへの掲載

（2）デジタル技術を活用した情報発信

- **村役場職員が自らGTFSDデータを整備し、Googleマップで検索可能**にしたこと、簡易な**バスロケアプリ導入**で、観光客などの村外からの利用者が増加。



▲GCF（ガバメントクラウドファンディング）

3. 自立性・継続性

（1）補助金に頼らない資金調達

- **GCF、企業版ふるさと納税**により、「むらバス」の**車両購入費を確保。**

（2）確実な需要と新たな需要の獲得

- **スキーリゾート会社との連携及び地域でデザインした運行路線**により、一定の利用が見込める車を持たない**外国人従業員の需要**と、高校生の利用が減少する**土日の観光需要**を取り込んだ。



▲地域おこし協力隊OG & 中学校とのコラボTシャツ



▲ワークショップの開催

赤井川村地域公共交通活性化協議会（北海道 赤井川村）

参考：赤井川村地域公共交通活性化協議会に係る路線図

むらバス 路線図



停留所
キロマウンテンセンター
キロチャベル前
常盤
農場前
落合
道の駅あかいがわ
都
都局前
旭丘
赤井川
セイコーマート前
神社通
峠下
日ノ出
生活館前
中の川橋
余市駅前
大川十字街
コープさっぽろ余市店前

赤井川市街地図

河村商店 ★ セイコーマート前
赤井川
常盤・キロ方面

「河村商店」内でバスを待つことができます

余市市街地拡大図

大川十字街 (中央バス停留所)
余市駅
コープさっぽろ余市店前 (中央バス停留所)

「余市駅」または、「余市駅前十字街」で各種公共交通（JR、高速バス）に乗り換えられます

常盤周辺拡大図

キロ寮 常盤

「キロ寮」の敷地内を経由します

「生活館前」～「常盤」の区間はフリー乗降区間

